

平成 29 年 2 月 19 日 (日) 施行

第 185 回 全経簿記能力検定試験 3 級 商業簿記 解説

第 1 問

1. 銀行より借り入れ

(借) 当座預金 (資産) の増加 (貸) 借入金 (負債) の増加

2. 車両の未払

(借) 車両運搬具 (資産) の増加 (貸) 未払金 (負債) の増加

3. 給料総額から所得税などの源泉徴収分を預り金 (負債) として差し引いて支払う。

(借) 給料 (費用) の発生 (貸) 所得税預り金 (負債) の増加
現金 (資産) の減少

4. 旅費の概算額

(借) 仮払金 (資産) の増加 (貸) 現金 (資産) の減少

5. 現金売上 (税抜方式)

(借) 現金 (資産) の増加 (貸) 売上 (収益) の発生
仮受消費税 (負債) の増加

6. 掛仕入 (税抜方式)

(借) 仕入 (費用) の発生 (貸) 買掛金 (負債) の増加
仮払消費税 (資産) の増加

7. 掛け代金の支払い

(借) 買掛金 (負債) の減少 (貸) 当座預金 (資産) の減少

第 2 問

1. 期首・期末の純資産と当期純利益

期首貸借対照表		損益計算書		期末貸借対照表	
資 産 7,500,000	負 債 1,800,000	費 用 8,600,000	収 益 9,000,000	資 産 7,400,000	負 債 (イ)
	期首純資産 5,700,000				期末純資産 (ウ)
		当期純利益 (ア)			

(ア) 当期純利益 = 収益 - 費用の関係より

$$\text{当期純利益} = \text{¥}9,000,000 - \text{¥}8,600,000 = \text{¥}400,000$$

(ウ) 期末純資産 = 期首純資産 + 当期純利益の関係より

$$\text{期末純資産} = \text{¥}5,700,000 + \text{¥}400,000 = \text{¥}6,100,000$$

(イ) 期末負債 = 期末資産 - 期末純資産の関係より

$$\text{期末負債} = \text{¥}7,400,000 - \text{¥}6,100,000 = \text{¥}1,300,000$$

2. 売上原価と売上総利益

売上原価		損益計算書	
期首商品 505,000	売上原価 (エ) 6,069,000	売上原価 (エ) 6,069,000	純売上高 8,700,000
純仕入高 6,070,000		売上総利益 (オ) 2,631,000	
	期末商品 506,000		

(エ) 売上原価 = 期首商品棚卸高 + 当期純仕入高 - 期末商品棚卸高 の関係より

$$\text{売上原価} = \text{¥}505,000 + \text{¥}6,070,000 - \text{¥}506,000 = \text{¥}6,069,000$$

(オ) 純売上高 - 売上原価 = 売上総利益 の関係より

$$\text{売上総利益} = \text{¥}8,700,000 - \text{¥}6,069,000 = \text{¥}2,631,000$$

第3問

入金伝票

(借) 現	金	10,800	(貸) 売	掛	金	10,800
-------	---	--------	-------	---	---	--------

第4問

1月1日 前月繰越

$$50 \text{ 個} \begin{cases} 10 \text{ 個} \times @190 = 1,900 \\ 40 \text{ 個} \times @200 = 8,000 \end{cases}$$

1月10日 商品の仕入

前月繰越 40 個と単価が同じなので、合算して記入することができる。よって、

$$80 \text{ 個} \begin{cases} 10 \text{ 個} \times @190 = 1,900 \\ 70 \text{ 個} \times @200 = 14,000 \end{cases}$$

1月16日 商品の出荷

先入先出法なので、払い出す 40 個中、前月繰越の 10 個(@190)と 30 個(@200)を全て払い出す。
残りは 40 個(@200)

1月17日 商品の仕入

仕入前残高 (40 個 @200) とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$100 \text{ 個} \begin{cases} 40 \text{ 個} \times @200 = 8,000 \\ 60 \text{ 個} \times @210 = 12,600 \end{cases}$$

1月23日 商品の出荷

先入先出法なので、払い出す 70 個中、先に仕入れた 40 個(@200)を全て払い出す。
残りの 30 個分を、後からの仕入分(@210)で払い出す。

100 個中 70 個払い出すので、残りは 30 個(@210)

1月30日 商品の仕入

仕入前残高(30個×@210)とは単価が違うので、合算して記入することができない。よって

$$50 \text{ 個} \left\{ \begin{array}{l} 30 \text{ 個} \times @210 = 6,300 \\ 20 \text{ 個} \times @205 = 4,100 \end{array} \right.$$

問1 この商品の粗利

売上高: 16日 40単位(箱)×売価@¥250 + 23日 70単位(箱)×売価@¥250 = ¥27,500

売上原価: 商品有高帳の払出合計より、出庫分¥22,200

粗利 = 売上高¥27,500 - 売上原価¥22,200 = ¥5,300

問2 この商品からえられた利益

粗利¥5,300 - 配送等の諸費用¥1,300(問題文より) = ¥4,000

第5問

決算整理事項

1. 売上原価の計算

期首商品棚卸高は残高試算表より¥500,000

(借) 仕 入	550,000	(貸) 繰越商品	550,000
繰越商品	500,000	仕 入	500,000

2. 貸倒引当金の計上

売掛金の期末残高は¥2,100,000

$$¥2,100,000 \times 1.0\% = ¥21,000$$

差額補充法で処理するので繰入額は¥21,000 - ¥19,000 = ¥2,000

(借) 貸倒引当金繰入	2,000	(貸) 貸倒引当金	2,000
-------------	-------	-----------	-------

3. 減価償却費の計算

備品の取得価額は¥2,000,000、耐用年数5年、残存価額はゼロなので、年間の減価償却費は、

$$¥2,000,000 \div 5 \text{ 年} = ¥400,000$$

直接法なので、備品から直接控除する。

(借) 減価償却費	400,000	(貸) 備 品	400,000
-----------	---------	---------	---------

4. 現金過不足の処理

500を雑損(費用)として処理する。

(借) 雑 損	500	(貸) 現金過不足	500
---------	-----	-----------	-----